

研究機関：広島大学

| | |
|------------|--|
| 研究課題名 | ヒト腎生検組織に対する電子顕微鏡 3D 微細構造モデル構築による系球体の検討 |
| 研究責任者名 | 広島大学病院 腎臓内科学 教授 正木 崇生 |
| 研究期間 | 2018年7月24日（倫理審査委員会承認日）～2021年8月31日 |
| 対象者 | 2018年7月24日(承認後)～2020年8月31日の間に本院腎臓内科に入院し、腎生検にて慢性腎炎症候群と診断された患者 |
| 意義・目的 | <p>慢性腎炎症候群は腎系球体基底膜に何らかの異常が生じ、尿中へ多量の尿蛋白が漏出することを病態とし、全身の浮腫により日常生活が困難となる、または末期腎不全に至り、腎代替療法を要することがある疾患群です。診断は主に腎生検によって行われ、臨床所見や身体所見を元に、腎生検によって得られた組織の光学顕微鏡所見・免疫蛍光抗体法所見・電子顕微鏡所見を総合して診断を行う事が一般的です。しかし片側 100 万個に至る系球体のごく一部を採取し、観察を行う腎生検組織の一般的な検討のみでは、確定診断に至らない症例も少なからず存在します。尿蛋白の漏出機構は系球体の基底膜の障害が大きく関与しており、同部位を詳細に観察し得れば、病態の解明や治療法への応用などが期待できます。本研究によって系球体の 3D 微細構造モデル作製を行う事により、これまで不詳とされてきた慢性腎炎症候群・ネフローゼ症候群の仔細な病因やメカニズムの解明が期待されるため、この研究を計画しました。</p> |
| 方法 | <p>本研究は、広島大学病院腎臓内科で腎生検を実施された患者さんの、検査時に作製した電子顕微鏡用グルタルアルデヒド固定された切片の残余を用います。この化学固定された組織のブロックを、2 次元的に電子顕微鏡で観察を行い、その後得られた連続走査電子顕微鏡画像を用いて 3D 再構築・解析を行い、3D 微細構情報を得ます。また診療録（カルテ）情報（検査値・病理所見等）も併せて調査します。（個人を特定可能な情報は解析に用いません）</p> |
| 共同研究機関 | 国立研究開発法人理化学研究所生命機能科学研究センター-広島大学共同研究拠点細胞場構造研究ユニット |
| 個人情報保護について | <p>調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。</p> <p>研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。</p> |
| 問合せ・苦情等の窓口 | 〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 Tel : 082-257-1506 |
| 広島大学病院腎臓内科 | 教授 正木 崇生（研究責任者） |
| 広島大学病院腎臓内科 | 病院診療講師 土井 俊樹（研究担当者） |
| 広島大学病院腎臓内科 | 病院診療講師 平塩 秀磨（研究担当者） |
| 試料・情報管理責任者 | 広島大学病院腎臓内科 教授 正木 崇生 |